

2 人会話での沈黙を埋めるフィラー行動

傳研究室 20L1062U 鈴木侑加

1. はじめに

会話におけるどちらが話し始めてもよい長い沈黙を埋めるために、会話参加者は何かしらの行動をすることがある。武川ら(2015)によると、それらフィラー行動と呼ばれるものが表出された場合、表出した者が次に話し始めると会話参加者らに推定されると述べている。本研究では、沈黙におけるフィラー行動にどんな種類があるのか、またそれらの行動が相手に次に話すよう促したり、あるいは自分が話し始めることを示唆することで、沈黙の時間を埋める役割を持つのかを検討する。。

2. 分析 1

2.1.目的

発話の帰属先が不明確な長い沈黙「ラプス」において、どんな種類のフィラー行動が表出・頻出するのか、フィラー行動の表出が後続発話権の取得を示唆するのかを調べる。

2.2.方法

データ：

『日本語日常会話コーパス(CEJC)』のうち、雑談形式をとった2人会話、14データを抽出し、それぞれの会話データにつき、データの終了から遡った5分間を分析の対象とした。分析にはアノテーションソフト ELAN を用いた。

手続き：

アノテーションソフト ELAN を用いて、沈黙を「ポーズ」「意識的/限定的」「ギャップ」「ラプス(話者継続・話者交替)」の4種類に分類し、「ラプス(話者継続・交替)」に生じたフィラー行動を記述した。分類したフィラー行動、「言い淀み類」「笑い」「頷き」「物体操作」「顔の動き」「手の動き」「姿勢変化」の内、「笑い」「頷き」を除いた5種類のフィラー行動については更に詳細に分類を行った。また、後続発話において話者となったか聞き手となったかの条件の違いについても考慮した。

2.3.結果

「言い淀み類」において聞き手に着目すると、話者継続時は応答詞を、話者交替時には言い淀みを多く表出していた。「手の動き」としては身体に接触する動きに関しては聞き手の方が、漠然とした動きを伴うその他に関しては話し手の方が多く表出した。言い淀み、逸らす、ジェスチャー、後傾においては、後続発話者による表出が、相手や物体へ顔を向ける動きは後続会話で聞き手となる者による表出が多く見られた。

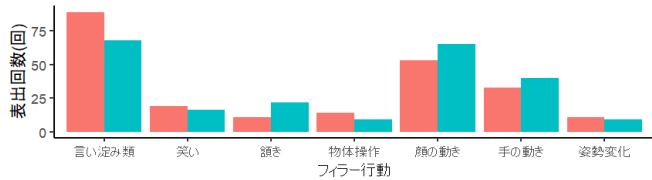


図1 フィラー行動の内訳

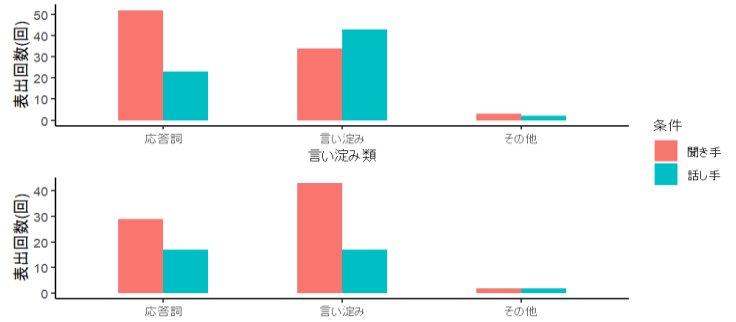


図2 言い淀み類の内訳

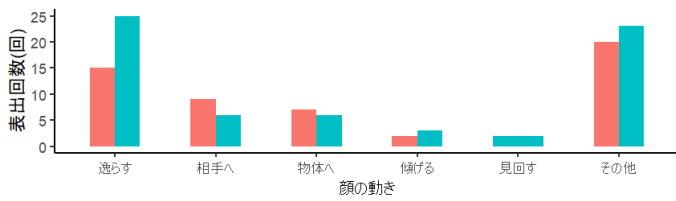


図3 物体操作の内訳

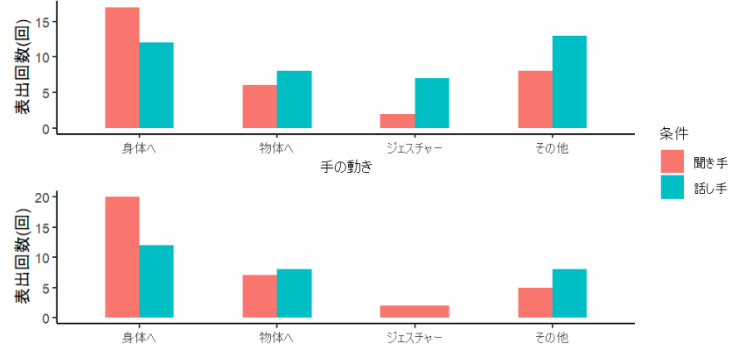


図4 手の動きの内訳

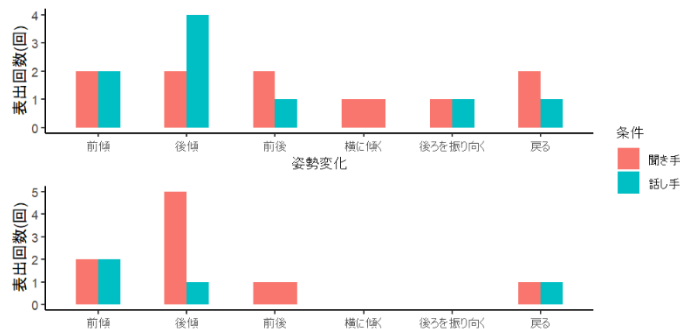
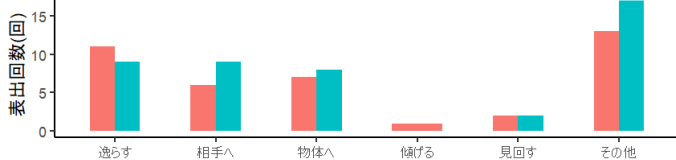


図5 姿勢変化の内訳

上が話者継続時、下が話者交替時を示す。

2.4.考察

「言い淀み類」の結果より、聞き手は話者継続時においては、沈黙の帰属先が相手にあると暗黙に了解しているために、相手に同意を示す応答詞が多く、話者交替時においては、相手

が次に話すかどうか不明確で、沈黙の帰属先を探るために、言い淀む回数が多いと考える。「手の動き」の結果より、聞き手は先行会話の間に他の事象に意識を向けることが比較的容易なため、頭を掻いたり、口を抑えたりなどの目的を持った動きを表出し、話し手は先行会話で話す内容を考えながら目的を持たない手の動きを表出するのではないかと考える。他に後続話者が多く表出していたフィラー行動に関しては、後続発話権の取得を相手に示唆している可能性が高いと考え、反対に後続会話で聞き手となる人によって表出されることの多かったフィラー行動に関しては、相手に後続発話権を取らないことを示している、もしくは相手に発話をするよう促す役割があると考えた。

3. 分析 2

3.1. 目的

フィラー行動の表出が時間的な側面で「ラプス」を埋める役割を果たすかどうかを調べる。

3.2. 方法

データ：

分析 1 と同様

手続き：

フィラー行動の種類ごとに、沈黙の開始時間からフィラー行動が表出するまでの時間と、フィラー行動が表出してから沈黙が終了するまでの時間を計算した。

3.3. 結果

沈黙開始からフィラー行動が表出するまでの時間について、まず「言い淀み類」は、話者継続時において、沈黙開始から早いタイミングに集中して表出されており、話者交替時は、表出頻度は減るものの、ある程度沈黙が続いた後にも「言い淀み類」が表出された。また、話者継続時の聞き手以外は表出するまでの時間が一定ではなく、まばらに見られた。「顔の動き」に関して、話者継続時・交替時共に早い段階に表出した。「手の動き」については、話者継続時においては 1 秒以内に多く偏って表出されているのに対して、話者交替時には、特に話し手において、沈黙開始から幾分か経過した後であっても表出されることがあった。フィラー行動表出から沈黙終了するまでの時間について、「言い淀み類」では話者交替時において、0.2 秒辺りが突出し、聞き手に関しては 0.8~1.0 秒が突出している一方、話者交替時は、フィラー行動表出から沈黙終了までの時間が話者継続時よりもバラつきがあった。「顔の動き」に関しては、話者継続時の表出により、沈黙終了までに 0~2 秒ほど要するの

に対し、話者交替時の表出は、沈黙終了までに0.2秒～3秒ほど要することがあった。「手の動き」においては、話者継続時の表出は沈黙終了まで0.2秒ほどかかることが多い一方、話者交替時のフィラー行動表出から沈黙終了までの時間は、1秒以上経過する事例が多かった。

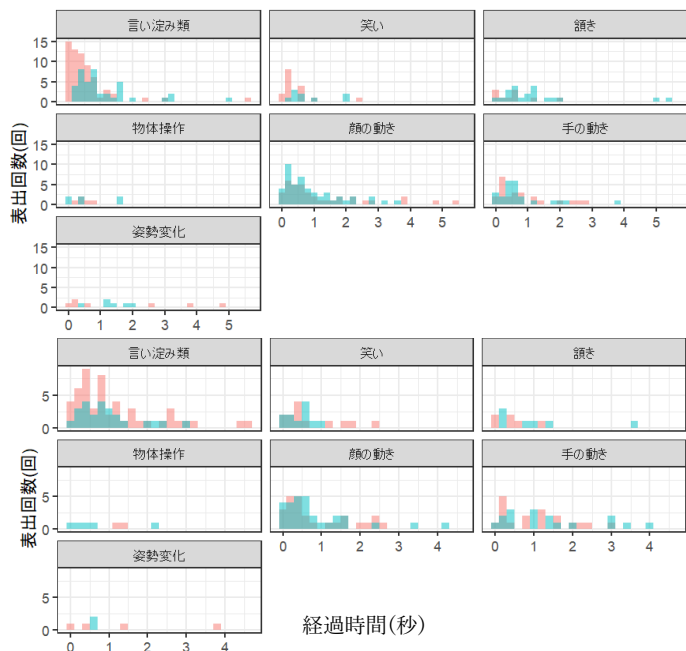


図6 沈黙開始からフィラー行動表出までの時間



図7 フィラー行動表出から沈黙終了までの時間

上が話者継続時、下が話者交替時を示す。

3.4. 考察

多くのフィラー行動において、話者継続時は沈黙開始から早い段階にフィラー行動が表出し、話者交替時はある程度経過後も表出したことから、話者継続時のフィラー行動はその表出により沈黙が開始した可能性が高く、話者交替時はフィラー行動を沈黙を埋めるために表出したと考えた。フィラー行動の表出から沈黙の終了までは、話者継続時は終了まで早い事例が多いことに対し、話者交替時は終了するまでの時間がまばらであったことから、話者継続時のフィラー行動表出はその表出により沈黙が終了した可能性が高く、話者交替時の表出は後続発話権の取得を相手に示唆している可能性が低いと考えた。

4. 総合考察

フィラー行動の種類ごとに、後続話者あるいは後続聞き手が表出しやすいものがあることが示された。それらのフィラー行動は、話者継続時に表出された場合は、そのフィラー行動の表出により「ラプス」が生じた可能性が示唆され、話者交替時に表出された場合は、沈黙時間を縮めるという効果よりも沈黙の時間を埋める役割が大きい可能性があることが示唆された。